

2024年10月1日

国際航空専門学校
校長 大森章生 殿

学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員会

委員長 岩田高廣



2024年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告致します。

記

1. 学校関係者評価委員

出席者：

	氏名	所属
委員長	岩田 高廣	国際航空専門学校 元教務部指定養成施設管理室長
委員	吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長
委員代理	鈴木 秀勝	株式会社 JAL エンジニアリング 総務部 組織・人財グループ マネジャー
委員	小池 隆	全日本空輸株式会社 整備センター業務推進部 総務チーム マネジャー
委員	藤原 健太郎	株式会社 JAL グランドサービス 総務部 人事採用グループ 課長
委員	関 理恵	ANA エアポートサービス株式会社 人事部 人事課 マネジャー
委員	高田 大介	朝日航洋株式会社 航空事業本部 執行職
事務局	大森 章生	国際航空専門学校 校長
事務局	山田 知良	国際航空専門学校 副校長
事務局	武川 泉	" 副校長 兼 管理部長
事務局	有海 和寿	" 教務部長 主席学科教官
事務局	増子 和久	" 教務部 エアロサポート科 学科長
事務局	久我 教之	" 管理部 総務部長
事務局	比企野 和也	" 管理部 就職指導部長 兼 業務部長
事務局	松島 共史	" 管理部 業務部 学生募集課長
事務局	高須 清美	" 管理部 就職指導部 就職指導課

欠席者：

	氏名	所属
委員	赤松 奈穂子	株式会社 JAL エンジニアリング 総務部 組織・人財グループ グループ長
委員	山崎 一慶	多摩川エアロシステムズ株式会社 整備部 部長

2. 学校関係者評価委員会 開催日

2024年8月22日（木）15:00～16:45 Zoom 使用によるオンライン会議

3. 2024年度学校関係者評価委員会 評価結果

2023年度の自己評価は妥当と判断する。尚、詳細は別紙のとおり。

以上

別紙

(1) 学校関係者評価委員会の目的

学校関係者評価委員会は、専門学校に求められている「職業実践専門課程」の中に位置しております。「職業実践専門課程」とは、専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的としており文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とするものです。「職業実践専門課程」における教育活動には、企業との連携により実践的な教育課程を編成する教育課程編成委員会、および学校を評価する為の自己評価委員会・本日開催の学校関係者評価委員会がございます。

学校評価が適切に行われているか、企業・業界団体等からの委員が適切であるか確認し、学校運営改善、情報の提供を行うことが学校関係者評価委員会の目的となっております。

(2) 学校運営方針・重点施策・就職状況

①学校運営方針

1. 高度な知識、能力、安全意識を有する航空技術者を育成し、航空の発展に寄与する
2. 健全な事務状況の確保、機材、施設等の確実な維持管理
3. 年度毎重点施策の提示
4. 学生個々の資質に対応した教育等
5. 教職員の知見向上
6. 開かれた学校運営
7. 社会との繋がり

目的を含めて7項目の中から必要事項を取り上げて校長より年度初めの重点施策が提示されます。提示された重点施策に基づき、我々は教育活動に携わっております。

②2023年度 重点施策

1. 整備士資格取得 100%
2. エアロサポート科特殊車両実習合格率 80%
3. 入学者数 130名
4. 乙種4類危険物取扱者 初回合格者(1年次) 60%
5. TOEIC SCORE 470点
6. SPI 模試の実施

以上の2023年度の重点施策をもとに学校教職員は教育活動をして参りました。

これについて自己評価をしておりますので、その評価について学校関係者評価委員の皆様にご検討いただければと思います。

③2023年度 就職状況

1. 航空整備科飛行機コース	23名/23名	100%
2. " 回転翼コース	15名/15名	100%
3. " 一整備コース	9名/9名	100%
4. 運航整備科航空技術コース	12名/12名	100%
5. エアロサポート科グランドハンドリングコース	17名/17名	100%
6. エアロサポート科ビジネスコース	3名/3名	100%
7. 全体	79名/79名	100% (進学2名)

2023年度の就職はどのコースの学生もすべて内定を頂きました。

(3) 2023年度自己評価結果の説明・審議

① 評価項目別取り組み状況

評価の基準を見直し、小項目に関する評価の総合判定で中項目、大項目を実施している。
また、総括と課題の項目に課題だけでなく総括も追加しました。

基準1 教育理念・目的・育成人材像

(総括) 教育理念・目的・育成人材像に関しては適切に対応しており、課題の発見や取り組みに対しても積極的であるが、学生・保護者・関連業界等への周知について、更に取り組みを推進していくことが望まれる。

基準 1-1-7,-8 「教育理念・目的・育成人材像の周知に取り組んでいるか」
学生・保護者・関連業界等への周知・確認方法については、期初や期末において学生・保護者との懇談会や学校 HP、パンフレットでの紹介、近年では SNS を通じた当校の取組を紹介する中で、教育理念や育成人材像の浸透を図っており、今後これらの取組の成果を確認し更なる浸透を進めていく。

基準2 学校運営

(総括) 学校運営に関して、全般的には適切に対応はしているものの、課題がある項目も散見している。特に「5. 意思決定システム」については課題解決に向けた前向きな取り組みを期待する。

基準 2-2-4 「事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか」
(総括) 事業計画の執行体制、業務分担等を見直し更に明確にしていく必要がある。事業計画の執行体制や業務分担については、各担務 分けにより明確になっているが、個別の取組について 担当者からの共有が不足している部分がある。

基準 2-3-11 「学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取り組みを行っているか」
(総括) 学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取り組みを行っているが、更に活性化していく必要がある。

基準 2-5-1 .-2-3 「意思決定システムを整備しているか」
(総括) 意思決定システムについて整備されてきているため、権限等については明確になってきている。

基準 2-6-5 「学生指導において、適切な学生情報管理システムを活用しているか」
(総括) 学生情報管理システムについては、適切に運用されている。

基準3 教育活動

(総括) 教育活動に関して、全般的には適切に対応はしているものの、課題がある項目も散

見している。特に「4. 資格・免許の取得の指導体制」及び「5. 教員・教員組織」は課題解決に向けた前向きな取り組みを期待する。

基準 3-2-12,~18 「教育課程について外部の意見を反映し、キャリア教育を実施しているか」適切に対応している。キャリア教育についてはインターンシップを積極的に行って行きます。

基準 3-2-19,~22 「授業評価を実施しているか」

昨年初めて卒業生へのアンケートを実施、今後アンケートの計画とともに、アンケートから得られた課題を教育へ反映して行きます。本年度もご協力宜しく願います。

基準 4 学修成果

(総括) 学修成果に関しては適切に対応しており、課題の発見や取り組みに対しても積極的である。コロナ禍の影響も落ち着きを取り戻し、航空関連企業の募集状況も改善してきており、希望企業への就職者も多く、進学者を除く就職率は100%となった。また、企業等と共催を図り説明会を66社実施する事が出来た。

基準 4-2-2 「特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取り組みはあるか」

外部講師を呼んで勉強会を実施出来ているが、一部の資格取得についてはまだまだ努力する必要があります。

基準 4-3-2 「卒業生の社会的評価を把握しているか」

就職先企業様との連携を図り、本年度も卒業生へのアンケートを実施し、状況の把握に努めてまいります。アンケート内容に関してアドバイスをいただければ幸いです。

基準 5 学生支援

(総括) 学生支援全般については適切に対応しており、保護者との連携を密に取るなど積極的な対応も窺える。その結果、中途退学者も減り、概ね順調に推移することが出来た。

基準 5-2 「退学者の低減が図られているか」

担任、副担任を主体に、学生面談、状況把握、カウンセラーの有効活用し、今年度の中途退学者は1名、転科希望者5名、前年度中の中途退学者5名、転科希望者9名から大幅に改善しました。

基準 5-4 「学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか」

学費の一部を無利子貸与する奨学金「航空整備士育成支援プログラム」を2024年度入学者から開始しました。

基準 6 教育環境

(総括) 教育環境については概ね適切に対応しており、課題が発見されれば積極的な対応に努めている。

基準 6-1-3 「図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか」

必要性のある専門分野図書の更なる充実を図ります。

基準 6-1-4 「学生の休憩・食事のためのスペースは充実しているか」
敷地が狭い為スペース確保が難しいが、創意工夫により限られたスペースの有効活用を図って参ります。

基準 7 学生の募集と受入れ

(総括) 学生の募集と受け入れに関しては適切に対応しており、課題の発見や取り組みに対しても積極的である。しかしながら、入学者増加の結果に結びつかず、非常に残念である。2023 年度入学学生は 72 名、2024 年度入学予定者数は 65 名となり前年度対比で 90.3% あった。4 年制大学への進学者の増加、コロナ禍の影響も残り、今年度入学者も前年を割る結果となり、経営上も厳しい状況が継続している。しかし、旺盛な航空重要の拡大に伴い、航空業界自体が活況を呈してきており、引続き一人でも多くの航空人財の育成に向け取組みたい。2023 年度の具体的な活動としては、高校訪問を積極的に行い、650 校を超える訪問を実施し、高校ガイダンス、イベント等へも積極的に参加するとともに、全国工業高等学校長協会との繋がりや高校の先生を対象とした空港見学会も継続的に実施し、航空産業の裾野拡大の取組みも実施した。しかし、一方で高校生への知名度向上に向けた取組み強化も検討していく必要がある。

<次年度以降の学生募集の重点取組み>

- ・ 広告媒体の運用強化
- ・ 効率的な高校訪問の実施 (650 校訪問)
- ・ 指定校提携の拡大、会場型・高校ガイダンス積極的参加
- ・ 工業高校教諭対象の夏季講習会、進路指導教諭対象の羽田空港見学実施等航空業界裾野拡大の取組み
- ・ オープンキャンパス、企業見学会の開催強化

基準 4-2 「学生募集活動を含め過去のデータ管理、分析に改善すべき部分はあるか」

今年度は改善すべき部分があり、システムの見直しとデータ分析の強化を実施します。

基準 8 財務

(総括) 財務に関して、全般的には適切に対応はしているものの、以下に記すような課題があり、積極的な対応・改善が望まれる。

基準 8-1 「財務基盤」
入学者数の減少が続き、授業料収入が減少していることにより、その収入における人件費割合が増大している。

基準 8-2 「予算・収支計画」
今後、収入の増加により、教育研究費用に充当することも課題である。費用の振り返りを徹底することによりコスト削減を進めて、事業活動収支がプラスとなる体制を目指します。

基準 9 法令順守

(総括) 法令の遵守に関しては適切に対応しており、課題の発見や取り組みに対しても積極的である。今後の課題を以下に記す。

基準 9-1-3 「セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか」
ハラスメントを未然に防ぐ(発生しない)組織とするために、職員に対する啓発、研修を今後も実施することが必要。

基準 10 社会貢献・地域貢献

(総括) 社会貢献・地域貢献に関しては適切に対応しており、以下に記すように積極的な取り組みを行っている。学校の教育資源を活用した社会貢献、地域貢献としては、コロナ禍の最終的な流れの中でコロナ以前の状況同様になれるよう可能な範囲で活動を行うことができた。地域清掃活動として学校を中心とした地域の清掃を実施した。

=基準 10-1= 例年 2 年生全員を対象とした救急救命講習については、未だコロナ感染も含め消防隊繁忙のため、昨年度に引き続き今年度も実施を見送った。なお献血活動の取り組みについては、学校内で希望学生に対し献血を行うことが出来た。昨年度見送った所沢航空発祥記念館の清掃については、今年度においてもコロナ禍での感染拡大予防を考慮して今年度も実施には至らなかった。今後も記念館と学校とのスケジュール調整も引き続き行い実施できるように対応していきたいと考える。その他、近隣中学校の職場体験授業に協力した。

=基準 10-1-13= 留学生については 3 名の学生が在籍し 2 名が無事卒業、1 名が 3 年生に進学出来ている。

=基準 10-2= 地域貢献の一環として所沢市吾妻地区改正の SDGS に関わる部分で、PR 活動にしようするポスター作成に本校学生が参加し、最優秀賞と優秀賞を受賞し、所沢市役所等の掲示など、地域における持続可能な開発目標取り組みに協力できた。

基準 10-1 「学校の教育資源を活用した 社会貢献・地域貢献を行っているか」
今後も地域社会からの要望があれば、学校全体で積極的に様々な取り組みに貢献する方針である。総括と課題にでた内容は要検討して改善等していく。

基準 10-1-13 「国際交流に取り組んでいるか」
2 名(韓国籍、スリランカ籍)の留学生が在籍している。航空業界全体の人員不足にも鑑み留学生による人材は必要不可欠と捉え、関係機関とも連携調整しながら今後も留学生受入を積極的に取り組んで行く。

基準 10-2 「学生のボランティア活動を 奨励し、具体的な活動支援 を行っているか」
所沢市内の町内会のまちづくり活動への参加(SDGs ポスター作成)し地域における持続可能な開発目標取り組みに協力しました。

【質疑応答・ご意見】

小池 様：(質問)

- ①今年航空技術協会が創設した奨学金制度は何名が利用していますか。
- ②基準7の近隣高校等の学校と連携強化を目指し指定校化を図る等に関してその後の効果や保護者の声があれば教えて欲しい。

学校：(回答)

- ①4名が利用しています。
- ②オープンキャンパス等への参加者数は前年に比べ60%程アップしています。更に所沢市民フェスタへの参加も決まっております。JAL,ANA さんのご協力をお願い致します。地元中学生の模擬授業、航空に触れる機会のない地方の小学生への「空の仕事の体験」も実施しております。

学校：(質問)

朝日航洋社様でのインターンシップについて教えていただきたい。

高田 様：(回答)

参加者からは好評です。実機を見て、触ると新鮮に感じてもらえるようで中学、高校生まで広げられればと思っています。国際航空専門学校さんでも実機を見て触られるオープンデイを設けて興味を持ってもらえば宜しいのではないのでしょうか。

学校：(質問)

JAL グランドサービス社様とANAエアポートサービス社様で実施いただいた空港見学会について教えていただきたい。

藤原 様：(回答)

朝日航洋社様と同様弊社の見学会も現場を見て感じていただくと我々の仕事のイメージも湧いてくると思いますので継続して行きたいと思います。

関 様：(回答)

業界研究をしっかりとされている高校生が多いと思いました。

関 様：(質問)

2023年度650校ほどの高校訪問をされたとの事ですが、新規開拓された高校から入学した方はいましたか。

学校：(回答)

一概に高校訪問した高校から何名とは言えませんが、ホームページを見て等インターネットの力が強いと感じています。以前から航空業界に興味があった生徒さんが多いと思います。

学校：(質問)

日本航空技術協会様の奨学金について昨年度の応募状況を教えてください。

吉田 様：(回答)

100名の募集に対して半分ほどの応募でした。2025年4月入学の学生対象の募集も9月の初旬に始まり航空専門学校オープンキャンパス等で宣伝していただいておりますので増える事を期待しています。

学校：(質問)

去年、今年と学生の整備工場見学会の状況は如何でしたか。

鈴木 様：(回答)

案内していると親御さんからの質問が多いと感じました。国際航空専門学を出たら我が子はどくなれるのか等興味を持って聞かれましたので将来像をお示しすると言った案内状況です。

②2023年度重点項目達成についての自己評価

1. 航空整備士資格取得 100%：
 - ・48名/48名 100%となり満足できる結果となった。
2. 特殊車両実習合格率 80%
 - ・特殊車両実習資格検定制度の判定基準設定は完了したが、判定の実施までには至らなかった。
 - ・特殊車両実習資格検定制度の判定基準に基づく適正な判定を行い、資格(校内資格)合格率 80%を目指す。
3. 学生募集、入学者 130名：
 - ・65名と目標を達成することはできなかったが、新たな目標入学者数を設定し、経営基盤を盤石にする。
4. 乙種4類危険物取扱者資格初回合格 60%：
 - ・合格率は17.7% 有効資料を用いて早期より学主を指導し、反復訓練により知識の蓄積を図る等、合格率向上のため指導を行う。また、計画的な危険物の追加授業を行う。
5. TOEIC SCORE 470点：
 - ・クラスによる格差があり達成クラスと未達クラスがある。しかしどのクラスにおいても進級する毎にわずかながらも平均点は上がっている。
 - 教育コンテンツの共有化、内容の更新及び語学力向上のための新教材等の導入を行い、授業等に取り入れた。英語の重要性を認識させ、継続的に英語に触れ、得点アップに努める。以上の対応を継続し、更なる TOEIC SCORE のレベルアップを目指すと共に、コース毎目標値の再設定については検討の余地を残す。
6. SPI 模擬試験の実施：
 - ・全てのクラスにおいて就職試験受験前に SPI 模擬試験を受験できるようになった。
 - SPI 教材による反復訓練及び SPI 模擬試験の継続的かつ効果的な受験により SPI の得点を向上させた。今後も以上の対応を継続し、更なるレベルアップを目指す。

(4) 2023 年度学生アンケート集計結果

学生による授業評価《座学》まとめ

全体評価：昨年の評価と同じ若しくは達成度はやや向上していると考察するが、以下の点については検討の余地がある。

- ①学習目標や講義計画が比較的明確であった(Q2)にもかかわらず、学習目標の達成度(Q10)に現れていない原因を検討する必要性が見える。
- ②オンライン授業の効果があまり評価されていない。対面授業と比較し、双方向でのやり取りが難しいかと考察される。オンライン授業に於ける効果の向上を図り、達成度をより高いものにする。

個別意見として①ネット環境(Wi-Fi)の改善 ②プロジェクターによる表示改善

③i-Padによる資料等の共有化 ④教官の声を明瞭についても、対応を検討する。

学生による授業評価【実習】まとめ

全体評価：昨年の評価と同じ若しくは達成度はやや向上している。《座学》に比較すると「3どちらともいえない」が少なく、「5あてはまる」、「4ややあてはまる」が多くなり、実習には関心が高く、意欲的に取り組めたと考察するが、以下の点については検討の余地がある。

- ①教育標準を定めているが、教員間の指導の方向性(Q8)にばらつきがあると感じているので、方向性を一致させるよう努める。

個別意見として①ネット環境(Wi-Fi)の改善 ②i-Padで資料等、共有出来るようにして欲しい。 ③教育機材(機体)の更新についても、対応を検討する。

卒業生によるアンケートまとめ

つなぎ、ジャンパーについて色等不満であった。

つなぎは本年度紺色に、ジャンパーは昨年度より厚手の物に変更した。

就職について

85%から90%の範囲で満足であった。

授業について

不満の声は無かった。

2024 年度計画について

①2024 年度 重点施策

②2024 年度 行事予定

送付資料でご確認をお願い致します。

【質疑応答・ご意見】

岩田委員長：

過去に航空発祥記念館にある機体を所沢フェスタに展示するお手伝いをしたこともありました。今期所沢フェスタに参加予定との事。学生募集の一助にそういったこともできるなと思いました。

学校：(意見)

航空発祥記念館がリニューアルを計画しています。当校も意見会に参画し意見を出します。

実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、学校関係者評価委員の皆様に「2023年度自己評価報告書」の結果について事務局より説明し、評価結果に対する意見を頂いた。頂いた意見は、本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等で公表する。

以上